



ふくい伝統行事「白浜町のアマメン」

ふるさと大賞写真コンテスト

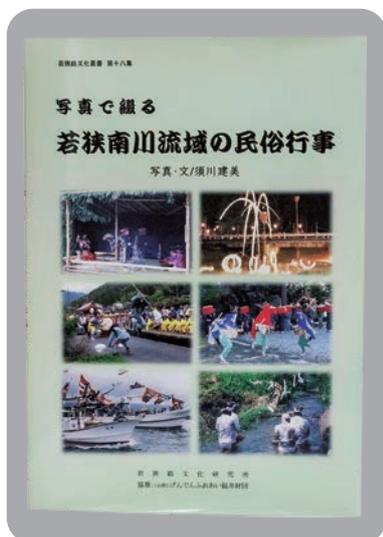
げんでん芸術新人賞

地域の文化活動

# 『写真で綴る若狭南川流域の民俗行事』の刊行

若狭路文化研究所（多仁照廣所長）は、(公財)げんでんふれあい福井財団の協賛のもと、小浜市とおおい町名田庄地区を流れる南川流域の祭りや神事を取りまとめた「写真で綴る若狭南川流域の民俗行事」を令和4年10月に刊行しました。本書は、小浜市在住の写真愛好家 須川建美さんが20年にわたり南川地域の祭りや神事を独自に取材・記録し、その際に撮影された81の民俗行事の1000枚を超える写真により綴られています。近年コロナ禍で地域の祭りや行事の中止が相次ぐ中、伝統ある民俗行事の保存・継承のためにも、須川さんの貴重な記録の公刊が必要と、同研究所が企画・刊行しました。

く分布する民俗行事の記録写真として、今後の民俗学研究の貴重な資料となるでしょう。少子高齢化や担い手不足などの問題が深刻化している今日、各地域において受け継がれてきた民俗文化が、こうした記録の保存によって後世に伝承されていくことを願っています。



写真で綴る若狭南川流域の民俗行事

本書は125ページで、最初に南川とその流域について各地区の歴史や特色が記載され、そのあと各民俗行事が写真をもとに解説されています。前半では、南川流域の複数の集落にまつわる民俗行事として、燃える松明(たいまつ)を柱の先端のかごに投げ入れる夏の火祭り「松上げ」や「獅子舞」「キツネ狩り(福入れ)」など23の民俗行事の様子が写真に図解や唱の歌詞も交え、実施地区や行事内容が分かりやすく掲載されています。また、後半では、南川の上流から下流の順で6地区の各集落における祭りや神事など81の民俗行事の様子がページごとに紹介され、それぞれ上部に写真、下部に実施の時期や内容が詳細に掲載されています。

目次(抜粋)	ページ
1) 南川と流域について	7
2) 流域の民俗行事について	8
①松上げ	8
②和久里壬生狂言	14
③神楽	15
④獅子舞	16
⑤陰陽師安倍家ゆかりの土御門神道の祭り	18
⑥当屋の役割を決め、七難即滅祈願柴走り	19
⑦流域の太鼓	20
⑧祭りの道化役	21
⑨株講	22
⑩六斎念仏	23
⑪キツネ狩り	25
⑫田の神祭り	27
⑬地藏盆	29
⑭県境の山上で県外2市と行う祭祀	30
⑮寒托鉢	31
⑯名田庄太鼓	31
⑰日本の伝統文化を観る夕べ	32
⑱流域の寺院	32
⑲流域の神社	33
⑳若狭瓦	34
㉑若狭和紙	34
㉒若狭研磨炭	35
㉓中名田地区の茅	36
3) 各集落の民俗行事	37 ~ 124
(6地区81の民俗行事)	

## 表紙の説明『白浜町のアマメン』

もと国見村の越前海岸に面した福井市白浜町では、毎年節分の夜に赤や青の鬼の面を被り、棕櫚の皮の蓑を着て手甲脚絆を付け深靴をはいたアマメンが訪れ、「悪い児はおらんかー」「取って喰ってしまうぞー」と子どもを脅します。泣き叫ぶ子どもを宥め、取りなし躡けて、厄払いのお礼を渡し帰ってもらいます。「アマメン」とは鬼面の転訛ではなく、能登の「アマメハギ」同様に怠けて囲炉裏ばかりに当たってできる火だこ、すなわち火班のことで、それをはぎ取って勤労意識を植え付けるために、年の代わる年頭に他界から訪れる来訪神—新年の神さま(正月神、歳徳神)とされています。越廼・茶崎にも現在中断中の「アッポッシャ」(アッポー餅のこと、餅欲しゃ)があり、男鹿をはじめ東北地方に点在するナマハゲと同一の訪れ神とされています。



(写真提供：福井県教育委員会)

## 目次 53

- スポット
- 「写真で綴る若狭南川流域の民俗行事」… 2
- 特別寄稿 …… 3
- ふくい伝統行事「白浜町のアマメン」… 4～5
- ふるさと大賞写真コンテスト… 6～7
- げんでん芸術新人賞 …… 8
- 地域の文化活動… 9
- 情報ファイル… 10～11
- 助成事業募集案内等 …… 12

### 財団シンボルマーク



公益財団法人「げんでんふれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民のみならずとの絆を大切に広報誌を目指します。

「げんでんふれあい福井財団が  
設立二十五周年を迎えて」



げんでんふれあい福井財団  
元 理事長 前川 則夫 氏  
(平成13(2001年)10月1日～  
平成20(2008年)6月30日在任)

当財団に従事した  
当時を振り返って

私が「げんでんふれあい福井財団」の活動に携わったのは今から20年ほど前、当財団設立後、間もないころです。当財団は福井県、敦賀市をはじめ、多くのの方々のお考えを拝聴し、福井の文化の発展、県民生活の充実に少しでも貢献したいとの思いで1997年に設立されました。そして、「げんでんふれあいコンサート」、「ふるさと大賞写真コンテスト」、「日英小学生絵画交流展」、お年寄りや障害を持った方に楽しいひと時を提供する「福祉寄席」など様々な活動を進めてきました。

振り返りますと、1998年福井市の能楽堂において、当時の福井県観世能楽会長のアレンジで人間国宝「茂山千作」さんや「野村万之丞」さんなど豪華メンバーを迎え観世流の能楽を支援しましたが、その際、敦賀の方から「敦賀は昔から京都の文化圏であり観

世流、福井は宝生流ではなかったのか」というご意見をいただいたことがありました。長く敦賀は京都の文化圏にあり、同時に環日本海文化・経済を牽引してきました。また、JR敦賀駅前に「ツヌガアラヒト像」があります。敦賀は古来、朝鮮半島、百済、新羅、渤海などの交流も盛んでした。

歴史を歩んできた  
交通・交流の要『敦賀』

さて、敦賀は陸路と海路が交わるところであり、水陸両交通の要地でした。それを具体的に示すのが、敦賀津・愛発関・松原客館など交通に関わる施設です。敦賀湾に開かれた敦賀港は古くから日本海中部以西はもとより、遠く朝鮮・中国につながる良港でした。それが大和支配下に入ると、更に東方への要港となり、北海道に向かう要人が敦賀から乗船したり、北海道の荷が敦賀に運送されてくるようになり、敦賀は北陸と奈良や京都の連結点(愛発関)として賑わうようになったのです。

また、海外に開かれた施設として「松原客館」があります。これは来日した外国、とりわけ渤海国からの使者をもてなす施設です。渤海は、727年以降約200年間に34回も使者を送ってきて日本海沿岸諸国を訪ねています。「松原客館」は現在の気比の松原の南

側、櫛川・松葉町あたりにあったと推定されています。ところで平安時代の文学者「紫式部」は若き日の一年半を武生で過ごしています。「紫式部」が越前国司に任ぜられた父とともに越前市を訪れたのは996年でした。その時、敦賀の「松原客館」に滞在する「宋人」を通じて先進的な文化に直接触れたことが、「紫式部」に大きく影響を与えたとも言われています。

明治時代に入ると敦賀港は1899年国際港に指定され、外国と交易する港に生まれ変わることになりました。昭和時代に入ると「命のビザ」でユダヤ人を救った「杉原千畝」は、第二次世界大戦開戦間もない1940年に、緊迫の度合いを深めるヨーロッパで6,000人にも及ぶユダヤ人を救いました。ヨーロッパ全土がナチスの脅威に飲み込まれる中、迫害され逃げ場を失ったユダヤ人にとって、最後の望みが「命のビザ」と言われる日本通過「ビザ」であり、リトアニアに赴任した「杉原千畝」は独断で「命のビザ」を発給したのです。脱出のため唯一の手段が「シベリア経由「敦賀」」でした。こうして敦賀は長い間、日本海側の文化・経済の牽引車となりました。今後、「げんでんふれあい福井財団」の活動の中に、このような歴史的視点を加えて充実していくことも大切だと思われ

当財団の将来への期待

これまで、敦賀を長く支え続けてこられた企業として東洋紡(株)、フランスからPPS(プレストレスト)コンクリート技術を導入した(株)日本ピーエス、日本最初の軽水型原子力発電所を導入した日本原子力発電(株)などがあります。しかし、2011年に発生した福島原発事故は日本の原子力開発に大きな影響を与え、敦賀2号機の再稼働や3・4号機の建設が中断されたまま10年間も経過しました。この間、当財団も苦しい運営を余儀なくされ、なかなか思うような事業展開ができなかったようですが、近年少しずつ従来の事業を復活していると聞きしています。今後、こうした原子力発電所が抱える課題解決が当財団にとっても不可欠であると思われれます。

来る2024年春には福井県民にとって待望の北陸新幹線敦賀延伸・開業を迎えます。歴史と伝統ある敦賀の街も、これを契機に人や物の行き来が大きく増え一段と発展するでしょう。当財団もこれに合わせて地元福井での理解・認知度を深めるための活動の充実など、更なる進化が望まれます。

終わりに、「げんでんふれあい福井財団」の設立25周年を心よりお祝い申し上げますとともに、この四半世紀を一つの節目として、文化振興とゆとりある地域づくりを目指し更に飛躍されますことを期待いたします。

ふくいの

伝統行事

福井県無形民俗文化財

## 「白浜町のアマメン」

福井市

## 新年に訪れる神々―来訪神

古来、年が代わるとされた正月前夜の大歳や小正月、節分の夜に、子どもや青年たちが仮面仮装をしたり、めだたい図柄を描いた祝い棒を持って災厄を追い払い、各戸に招福を祈る文句を唱えながら集落を回る年頭の行事が今なお県内各地で行われています。近年、国際的にその重要性が改めて注目、再認識され、2018年にはユネスコ無形文化遺産に「日本の来訪神行事」として男鹿のナマハゲや鹿児島の甑島のトシドン、大船渡市吉浜のスネカ、山形県遊佐町の小正月行事、能登半島のアマメハギ、佐賀市見島のカセドリ、薩摩硫黄島のメンドン、宮古島市のパントウ、鹿児島県石島のボゼなどの8件の民俗行事が登録されました。残念ながら、県内の各種の来訪神行事は集落内における伝統文化保存の基盤が脆弱だったり、少子化が進み行事自体の継続、運営が困難になり、登録にまで至りませんでした。とはいえ、目下、33か所の嶺南地方の戸祝い・キツネガリ行事について営為調査報告書の刊行が着々と取り組まれています。至って地味ながら、若狭湾沿岸の狭い

一地域に、今なおこれだけの来訪神慣行が継承されていることは全国的に稀有なことにほかなりません。

## 落人伝説の漁村・白浜の風土

嶺北地方の来訪神の際立った特徴は、おどろおどろしい仮面仮装をして各家を訪れ、子どもたちを脅かし躰しづをすることであり、東北から北陸にかけて分布するいわゆるナマハゲ系の習俗を今に伝えていることにあります。福井市越廼・茶崎のアッポツシャ（アッポツチャ）は惜しいことに現在中止していますが、当地のアマメンもほぼ同様の来訪神行事を今日まで伝えてきました。

越前海岸の海岸段丘下に所在する、福井市白浜はもと国見村に所属。現在の所帯数は45戸、人口は177人（令和3年10月1日 福井市統計書）の漁村で宗旨は浄土宗。戦国時代に石見国（島根県）より毛利氏に滅ぼされた日子氏の残党が「そりこ舟」に乗って当地に移住したと伝えられています。穏やかな海岸の砂地が白いことから「白浜」と呼ばれてきました。



福井市越廼・茶崎のアッポツシャ（アッポツチャ）



## アマメンの来る夜

極寒の節分の夜、厚手のボール紙をくりぬいた赤や青の鬼の仮面をかぶり、棕櫚しょうろの皮の蓑を着て、手甲てこう脚絆あしはきをつけ深靴をはいた中学生の「アマメン」と呼ばれた一行が、氏神の神明神社に集合。区内の幼い児のいる家を順次回り訪問。各家の戸口で拍子木を打ち鳴らし「ウオーウオー」と猛々しい声を張り上げて家に入り、「悪い児はおらんか」「取って食ってしまっぞー」などと子どもを脅します。親に抱きついてわめき泣き叫ぶ子どもを親や祖父母がなだめ、とりなして厄払いの菓子や餅ミカンのアマメンに渡し、何とか家を出て行ってもらったことになり「安心。家々では幼児の躰しづの一端としてこの行事を受け入れ、長年継承されてきたことに意義があるようです。

## 「アマメン」ウツウツ言葉の意味

信仰心のひとかけらもない、軽薄な外国渡来の猿まねともいえるクリスマスやハロウィンが流行する一方、今で



②



画用紙にアマメンの顔を描いて作った面をかぶり、子どものいる家を訪問する

④



突然のアマメンの来訪に驚いて泣く子ども

⑥



「悪いことはしません」と誓う子ども

(写真提供：金田久璋氏、福井市教育委員会)



①

は聞きなれない言葉になってしまった「アマメン」の意味とは何でしょうか。能登に「アマメハギ」があるように「アマメ」や「アマミ」は、冬の間怠けて囲炉裏ばかり当たっていると、手足にできる低温焼けどの火胼肌（ひだこ）、すなわち火班のごとで、怠惰になりがちな村びとを諷め訓導し規制する、村落共同体の規範を確認する意味合いがあるとされています。 moreover、年頭に訪れる新年の神である年神（歳徳神）の代理として家々を訪れてくることにはなりません。

(日本地名研究所)

所長 金田久璋

③



アマメンが子どもを脅かす

⑤



「悪い子はいないか」と大声で叫ぶアマメン

左の写真①～⑥は福井市白浜町においてアマメンの面を付ける準備から子どものいる家を訪問し脅かすまでの様子

# ふるさと大賞写真コンテスト

当財団では、「ふるさと福井の自然・歴史・文化」等の地域資源を題材にした写真コンテストを行いました。  
 【表彰式】 令和4年11月13日 【応募総数】 90名280点

テーマ

## ふるさとの四季「知られざる宝」



ふるさと  
大賞

佐々木 修さん  
(大野市)

### 寒中水泳

周りに雪が積もるダムで、雌雄のニホンジカが泳ぐ珍しいシーンを捉えました。九頭竜峡の静寂を切り裂くように、水面が波打ち揺らいでいます。敵からの逃避なのか、餌や生息地を求めて移動しているのかわかりませんが、寒々とした冬を生き抜く野生動物の力強さ、命をつなぐ厳しさを表しています。奥越の豊かな自然を裏付けるとともに、今回のテーマ『ふるさとの四季「知られざる宝」』を見事に写し取った素晴らしい一枚です。目の前で遭遇した好機に対し、慌てずカメラを構えた作者の行動と判断力が光ります。

(福井新聞社/中野 克則氏)

### ふるさと賞



一般の部 「通学路」

向出 隆一さん (福井市)



一般の部 「福井のウユニ塩湖」

江守 伸一さん (福井市)



学生の部 「絶対勝つ!!!」

齋藤 飛鳥さん (丹生高校)



『げんでんふるさと大賞 写真コンテスト』と『げんでん芸術新人賞』で表彰された皆様

# 優秀賞



一般の部「夏空」

細田 善一郎さん (福井市)



一般の部「夏高原に舞う」

林 昌尚さん (越前市)



一般の部「霧氷の戯れ」

坂本 英継さん (大野市)

## 総評

審査委員長 写真家 水谷内 健次 氏

今年も「げんでんふるさと大賞」に多くの作品が寄せられた。増えたのは学生部門で、昨年に比べコロナ禍での活動が緩和されたからだろうか、学校生活を主題にした作品が目にする。安堵してうれしさがこみあげてくる。一般部門の作品からは、県内各地に足を運び、自然と人や動物が織りなす風景を写し撮ろうと真摯に努力する姿が感じられる。どの作品も作者が自身の視点でみつめた特別な一枚である。大賞の佐々木さんの作品は、シカがダムの水面を切り裂くように渡っていく作品である。水や空気の冷たさの捉え方が見事で、野性に生きる動物に畏敬の念も感じてしまう。ふるさと賞の江守さんの作品は、海岸線に立つ一人の女性と一羽の鳥が広い空と海の間でつながり、ストーリーを生む作品である。向出さんの作品は、いつもの朝の子どもと鳥の姿を同視線でみつめている。季節とともにある風景である。これからも多くの人にふるさとを素晴らしさを独自の視点で切りとっていただきたい。



学生の部「お彼岸のごちそう」

柳生 陽音さん (丹生高校)



学生の部「この先の世界へ」

玉村 心優さん (丹生高校)

## 協賛社賞

(株)フジカラー北陸賞



「ぼくだけの虹」

立井 瑞規さん (若狭町)

福井県カメラ商組合賞



「フィナーレ」

渡辺 修一さん (鯖江市)

## 入選作品一覧 (敬称略)

作品名	受賞者
至福の笑顔	山田 蒼依 (愛女子高校)
回れ!	山本 翔太 (丹生高校)
Hey! you!!	山本 知佳 (丹生高校)
束の間の休息	西畑 首果 (羽水高校)
無邪気	蓬菜合心花 (愛女子高校)
明日へ	橋本 恵悟 (敦賀市)
秋空	田中 靖 (敦賀市)
収穫の時	重田 俊弘 (小浜市)
我が家の芋掘り名人	赤松 康子 (永平寺町)
光降る島	中村 由夫 (敦賀市)
幽玄の城	橋本 隆 (坂井市)
蓮如上人御影道中	斎藤 俊治 (坂井市)
桜咲く道	金子 敏己 (鯖江市)
祈願の帰り道	笠原 由和 (敦賀市)
厳寒の日本海に咲く	室田 昇 (鯖江市)
厄払い餅まき風景	片岡 修一 (越前市)
冬の使者	塚田 玲子 (鯖江市)
炎の乱舞	藤村 留美 (敦賀市)
洞窟からの夕景	増田 松則 (福井市)
ふるさとの宝	福岡 幹子 (鯖江市)
和む春	多田 幸男 (福井市)
秋の甲ヶ崎湾	栗野 和美 (小浜市)
空聞芸術	塚谷 朝負 (福井市)
九頭竜の秋	竹次 一雄 (福井市)
古(いにしへ)に思いを馳せて	清水 照夫 (福井市)
親子で明日を語る	山内 信孝 (越前市)
コロナ時の至福の時間	大谷 繁一 (坂井市)
春満開	寺尾美代子 (福井市)
ハイ、チーズ	青山 秀子 (鯖江市)

富士フィルムイメージングシステムズ(株)賞



「朝日射す参道」

吉田 隆一さん (福井市)

# げんでん 芸術新人賞

漆の美しい艶に魅了され  
会社勤務の傍ら漆・木工芸作家  
として日々技術を磨く



浅賀 貴宏さん  
(敦賀市)

新潟県柏崎市出身で敦賀短期大学卒業後、石川県立輪島漆芸研究所で下地・塗り・素地作りなどを学んだ。その後敦賀市内で就職し、大学及び㈱アイケープラスに勤務する傍ら人間国宝の川北良造氏及び村山明氏に師事して漆・木工芸を学び、多くの作品を全国の公募展に出品している。令和3年には日本煎茶芸展において木目の美しさや高い技術力が評価され最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。現



第35回日本煎茶芸展 出品作品  
文部科学大臣賞受賞作品「漆拭漆隅切盆」



第38回日本伝統漆芸展 出品作品  
漆芸「捲胎波紋盤「気比ノ波」

当財団では、福井県の文化・芸術の振興と育成に寄与することを目的に顕彰制度を設けており、本年度は県内在住の新人芸術家で将来を大いに期待される芸術活動を推奨する賞として「げんでん芸術新人賞」を浅賀さん(漆工芸)、鈴木さん(工芸美術II木彫)の2名に贈呈しました。

授賞式 令和4年11月13日

在、福井県総合美術展の工芸部門会員(無鑑査)審査委員なども務めている。近年は、敦賀市で「漆工房あさか」を設立するなど敦賀に関連した作品を手掛け地元活性化に貢献している。

木彫作家として木に宿る生命力を  
追求し作品に新しい命を  
吹き込もうと創作に励む

## 工芸美術(木彫)



鈴木 良一さん  
(鯖江市)

福井県内の高校を卒業後、木彫刻師の道を選び富山県で修業し、その後越前市において工房を開いた。らんまや仏像を作る昔からの伝統的な技法に加え、自由な発想による個性ある作品を数多く生み出している。若くして出品した日本現代工芸美術展や日展などで入選後、木に宿る「生命力」を追求し新しい

命を吹き込もうと日々創作に励んでいる。現在、現代工芸美術家協会の本会員、日展会友に所属し、実力を兼ね備えた木彫作家として県内外で活躍するとともに、地元で木彫教室を開くなど木彫の普及に努めている。



第55回日本現代工芸美術展  
現代工芸本会員賞受賞作品「杜羊」



第58回日本現代工芸美術展  
現代工芸審査員出品作「夢見る人工知能」



げんでん芸術新人賞を受賞された浅賀さんと鈴木さん  
中島敦賀市文協会長(左端) 師尾理事長(右端)

# 地域の文化活動

「財団助成事業の紹介」  
当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成を行っています。  
助成事業の中から紹介します。

## 第6回 ふくいオカリナフェスティバル

— 令和4年10月1日 —

オカリナの普及と愛好家の交流を目的に福井県オカリナ協会等が主催する第6回ふくいオカリナフェスティバル *Fukui String Harmonica* が令和4年10月1日（土）福井市の八幡ホールで開催されました。コロナ禍の影響で3年ぶりに開催された今回は県内のオカリナ愛好家約80人が参加し、ソロや合奏で「Tomorrow」「瀬戸の花嫁」「さとうきび畑」等の歌謡曲や映画音楽、クラシックなど25曲が披露されました。また、最後には元敦賀短大教授でオカリナ演奏の指導をされていた亡き西村眞一郎さんの追悼を兼ねての全員の演奏もあり、参加者の思いが一つになった想い会も行われました。穏やかな優しいオカリナの音色とともに音響や映像が加わったステージに約1000人の来場者は懐かしさと温もりを感じていました。



## 第36回 長唄杵屋弥登悠会 師籍50周年記念演奏会

— 令和4年11月27日 —

日本の伝統音楽「長唄」の伝承・普及を目的に長唄杵屋弥登悠会が主催する第36回長唄杵屋弥登悠会師籍50周年記念演奏会が令和4年11月27日（日）福井市のフェニックスプラザホールで開催されました。今回は、同会主催の指導歴50周年を祝う特別演奏会で、プロの演奏家4人の賛助を得ながら、同会門弟10人がそれぞれ主役となって各自の課題曲を披露しました。オープニングは「三曲糸の調」と題して琴・胡弓・三味線が響く重厚な曲とともに地唄式の掛け合いが入った格調高い演奏で始まりました。その後、同会門弟により「勧進帳」や「秋の色種」「連獅子」など日頃研鑽してきた「長唄」が順に披露されました。三味線の高い音色と合わせ、情感のこもった歯切れのよい唄声に、先人から受け継がれてきた伝統文化の豊かさを感じられる晩秋のひと時でした。



## 第20回 たけのっ子劇場 ミュージカル公演

— 令和4年12月11日 —

越前市の子ども劇団「たけのっ子劇場」が主催する第20回たけのっ子劇場ミュージカルが令和4年12月11日（日）越前市文化センター大ホールで開催されました。同劇団は2002年に結成され、演劇を通じて子どもたちの創造力やコミュニケーション能力を育むことを目的に、毎年出演者を募集し公演を行ってきました。今回は20回目の公演で、「存在意義」をテーマとしてオリジナル作品「ラウズ王国の加護の力」を演目に、同劇団の大谷由紀子代表が脚本し丹南地区の小中高生ら27人が参加しました。内容は『魔法使いの世界で下町の女の子が王族だったことが分かり、倒れた王様の代わりをしなくてはいけないのに魔法が使えず下町の友達からも突き放され孤立しますが、最後は自分の「存在意義」を見つける』という物語でした。出演した子どもたちは歌や演劇などで自分の役を精一杯表現していました。子どもたちの心の豊かさや感性が感じられる熱演に約500人の観客は初冬の寒さを吹き飛ばすくらい大きな拍手で応援していました。



第41回 福井県市町文協選抜美術展 (令和4年9月2日~4日:勝山市)

3年ぶりの美術展・芸能祭の開催

当財団  
助成事業



書道部門

福井県文化協議会と勝山市文化協会が主催(当財団協賛)した第41回福井県市町文協選抜美術展が令和4年9月2日(金)から4日(日)まで勝山市体育館「ジオアリーナ」で開催されました。この美術展は地域文化の振興と発展を目的に県内17市町の文化協会や文化協議会が毎年持ち回りで行ってきましたが、コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となりました。今回は「恐竜の里に 織りなす 創造の祭り」をテーマに同文化協会・文化協議会・文化協議会の会員から選抜された絵画、写真、書道、工芸



絵画部門



工芸部門



写真部門

の4部門の優秀作品約300点が出品されました。絵画部門では県内各地の名所や祭りの様子など、風景や人物、静物を描いた84点、写真部門では四季折々の自然や風景など45点、書道部門では漢詩や現代詩文など75点、工芸部門では陶芸や彫刻、装飾工芸など94点が展示されました。何れも地域色豊かで熟練された力作に訪れた人たちは目を引かれ、じっくりと初秋の鑑賞を楽しんでいました。

第31回 福井県市町文協選抜芸能祭 (令和4年9月25日:越前市)

越前市文化協議会 ~越の都つなく文化と匠の技~ から



紫式部の案内による吟舞



越前紙漉き唄と踊り



コウノトリと自然を表現したバレエ

福井県文化協議会と越前市文化協議会が主催(当財団協賛)した第31回福井県市町文協選抜芸能祭が令和4年9月25日(日)に越前市文化センターで開催されました。この芸能祭は2022ふくい県民総合文化祭「ふれあいフェスティバル」の事業の一つで、地域文化の振興を目的に県内17市町の文化協議会や文化協会が毎年持ち

りで行ってきましたが、コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となりました。今回は同文化協議会・文化協会から選抜された代表団体の約350人が出演しました。大正琴、合唱、民謡、吟舞、太極拳、バレエなど、各市町ごとに趣向を凝らした多彩なプログラムが進められ、出演者は日頃の練習の成果をステージいっぱいに披露しました。プログラム

の最後を務めた地元越前市文協は、同市ゆかりの紫式部が案内役となり、紙漉き唄の民謡や戦国武将をイメージした剣詩舞道、コウノトリを題材に豊かな自然を表現したバレエなど、多彩な舞台演出により地元越前市の魅力をアピールしました。各団体の出演者の熱演と地域色を活かした華やかなステージに会場は盛り上がり、観客から大きな拍手が送られていました。

げんでんふれあいコンサート2022 (令和4年10月10日・15日)

当財団  
自主事業

優れた芸術鑑賞の機会提供の一環として、当財団主催の「げんでんふれあいコンサート2022」を令和4年10月10日(祝・月)南越前文化会館、10月15日(土)敦賀市民文化センターにおいて、それぞれ開催しました。

今年「天高くこころ肥ゆる 秋のビタミンはいどぞぞ」と題して、若い世代の音楽教育に力を入れておられるピアニストの高橋かほるさんを中心に、福井県内で活躍されているソプラノ歌手の東園さん、サクソフォニストの片山奈々愛さんを迎え、初めて嶺北と嶺南の2会場でのコンサートとしました。

特に、今回は「子どもにも親しめる音楽をお届けする」という趣向が加わり、また、エネルギッシュな地元福井の音楽家の生の演奏や歌声も聴けるとあって、小さなお子さんを連れられた若いご家族をはじめ、県内各地から両会場に合わせ約500人の観客が詰めかけました。



コンサート終了後(敦賀市民文化センター)



開場を待つ観客(南越前文化会館)



たかはし  
高橋 かほる  
(ピアノ)



ひがし  
東 園  
(ソプラノ)



かたやま  
片山 奈々愛  
(サクソフォン)



●第1部

第1部では、ピアニストの高橋かほるさんによる「子犬のワルツ」などクラシック中心から映画「戦場のメリークリスマス」のピアノソロに引き続き、後半からソプラノ歌手の東園さん、サクソフォニストの片山奈々愛さんも加わり、「オペラ「カルメン」よりハバネラ」などの演奏が行われました。ピアノから出る色々な音によるオーケストラ風の演奏とともに、時折交えるトークに観客は楽しく聴き入っていました。

プログラム第1部『ピアノオーケストラになる!?!』

- 子犬のワルツ (F. ショパン)
- トルコマーチ (W. A. モーツァルト)
- 戦場のメリークリスマス (坂本龍一)
- オペラ「カルメン」よりハバネラ (G. ビゼー)
- Time to say Goobye (O. ピーターソンほか)

●第2部

第2部では、ピアニストの高橋かほるさんとソプラノ歌手の東園さん、サクソフォニストの片山奈々愛さんの3人の音楽家により「ホール・ニュー・ワールド」などお馴染みのディズニーの映画音楽からアップテンポの洋楽など、爽快なメロディーが次々と披露されました。声量あるソプラノ歌手による壮麗な歌声と歌うように奏でられるサクソフォンの様々な音色に観客は酔いしれていました。

プログラム第2部『歌う、奏でる、弾ける!』

- オー・ソレ・ミオ (ナポリ民謡)
- オペラ座の怪人~シング・オブ・ミー (A. ロイド・ウェーバー)
- 星に願いを (L. ハーライン)
- ホール・ニュー・ワールド (A. メンケン)
- 美女と野獣 (A. メンケン) ほか

第2部終了後、会場から鳴り止まぬアンコールの拍手に3人が再登場し、フニクラ・フニクラ(L. デンツァ)が演奏されました。楽しい音楽による爽やかな秋のひと時に観客は笑顔と元気を一杯いただきました。





# 財団 ふれあい 通信

## 令和5年度 財団助成事業の募集について

財団では、令和5年度において文化活動等の事業を行うため助成を受けたい団体を募集しています。

### 対象団体の要件

- 1 福井県内に活動の本拠を置く団体
- 2 構成員（会員）が原則として20名以上の団体
- 3 令和5年4月1日現在で、設立後2年を経過している団体
- 4 営利を目的とせず、明確な会計処理を実施・報告できる団体

### 応募方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を当財団に提出してください。

申請期間：令和4年12月15日(木)～令和5年2月15日(水)まで

- 所定の申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等があります。詳しいことは「げんでんふれあい福井財団（☎0770-21-0291）」にお問合せいただくか、当財団ホームページ（<https://www.genden.or.jp>）をご覧ください。

## 財団イベント INFORMATION

イベント名	内 容	期 日	場 所	入場料・その他
文化講演会	〈講師〉若宮正子 〈演題〉私は創造的でありたい ～人生にもう遅いはない～	令和5年2月12日(日) 午前10時15分～	小浜市 小濱旭座	小浜市連合婦人会と 当財団の共催 入場無料
手影絵 パフォーマンス HAND SHADOW SHOW	劇団かかし座による手影 絵を使ったパフォーマンス ショー	令和5年2月12日(日) 1回目 午前10時～ 2回目 午後2時～	若狭町 パレア若狭 音楽ホール	パレア若狭主催 (当財団協賛) 一般 1,000円 小学生以下 500円 (全席指定)
パレア若狭ミュージカル ドリームプロジェクト 「希望に向かって～The Sound of Music～」	サウンドオブミュージック をもとにオリジナル作 品の上演	令和5年3月5日(日) 午後2時～午後4時15分		パレア若狭主催 (当財団協賛) 一般 1,000円 高校生以下 500円 (全席指定)
越のルビー アーティストバンク 登録オーディション	ふくい若き音楽家たち のオーディション(公開)	令和5年2月19日(日) 午前10時～午後3時(予定)	福井市 ハーモニーホール ふくい(小ホール)	福井県文化振興事業 団主催(当財団協賛) 入場無料

